

## 建設企業常任委員会議会報告

開催日時	平成29年 1月31日(火) 午後3時～午後4時	
開催場所	明石市役所 議会棟 2階 大会議室	
出席議員	委員長	国出拓志
	司会者	寺井吉広
	記録者	梅田宏希
	その他	永井俊作 三好宏 久枝陽一 (建設企業常任委員会委員) 佐々木敏 千住啓介 中西礼皇 (議会活性化推進委員会委員)
参加人数	18名	
傍聴人数	6名	
主な意見・提言・要望と応答 (概要)	<p><b>◎行政視察報告</b>  <b>報告者 (三好委員 久枝委員)</b>  山口市の交通政策について視察してきた内容を報告。</p> <p><b>◎意見交換</b>  <b>発言者 (明石地区タクシー協会)</b>  コミュニティタクシーについては、明石市の場合には過疎地ではないんですが、交通不便地という問題があります。それで、コミュニティバスなどの制度ができて、市民の交通アクセスのためには良いことと思っております。また、私たちタクシー業界も公共交通機関の一員として、担っていかなければいけないと思っております。</p> <p>電車やバスの補完として、高齢者、また緊急を要する、路線バス等ではできないこと、時間帯、夜中とか路線のないところとか、絶対にタクシーがいるんです。そういう中における乗合タクシーというものを考えていただければと思います。</p> <p>有償輸送とする限りは法律の問題があったり、地域の方がやると言いますが、NPOの人とかいろいろあるんですが、人命を預かるので、2種免許を持っていないとダメ。誰でもやったらいいもんじゃなしに、地域公共交通会議でその問題で合意ができてこそという条件がありますんで。そこで同意をいただいたら、その方向で大いに公共交通の一員として不便地域でやっていきたいと思っております。</p> <p><b>発言者 (国土交通省神戸運輸監理部兵庫陸運部)</b>  山口市の交通政策についてご報告をいただき、やっぱり私どもが一番気</p>	

になるところは、利用者がどう思ってるのかなという辺りです。例えば、収支比率が40%で終了してしまった地区があるということなので、その後に残された人はどういう風にお考えなのかなと。

地域の方が自ら主体となって運行に取り組むということは、兵庫県下でもあります。有名なところからいきますと、西宮の「ぐるっと生瀬」というところや、実証実験中で四月から本格運行を目指そうとしています。垂水区にある「しおかぜ」というところで、山陽タクシーさんがおやりになってるところです。こういったところ、やはり、なにか圧力といいたいでしょうか、「ぐるっと生瀬」で言いますと、坂が多いですとか狭隘な道路があってバスが入っていけないとかですね。明石市さんの中で、そういったものがあるのかどうかという辺りをしっかりと考えて、地域を巻き込んでいくのが順当なのかなと。中にはそういった地域の方の意見をあまり聞かないで、とにかくバスを走らせてほしいとか、コミュニティバスが走っていないといけないというような、ただそれだけで走らせておられるところも、ひょっとしたらあるかなと思いますので、公共交通を考える上では、やはり冒頭申し上げたような地域の方々を巻き込んで、そして本当に必要なところに、必要な形態の公共交通網を敷いていくというのが一番大事なのかなと思っています。

#### **発言者（永井副委員長）**

山口市に視察に行った経緯というのは、やはり明石のコミュニティバスのあり方、年間1億5千万円ほど助成金を出しています。コミュニティバスの場合、収支比率50%以上ということで、地域の方々にご協力をいただいて目標にしてきたんですけども、なかなかそれが達成できない地域もあります。そういったことも含めて、タクシーも含めて頑張っている山口市を見てきました。

今日は地域公共交通会議の皆さんにいろんなアドバイスをいただきながら、せっかく助成金を出して行っているのも、市民の方も納得、市も限られた財源の中で、どう有効に活用するかということも含めて、この場を設定させていただきましたので、各団体の方々も各地域でいろんな課題を抱えていると思いますので、お声を聞かせていただきたいと思います。

#### **発言者（明石市身体障害者福祉協会）**

バスの手帳をいただいている、それは有難いことですが、明石市から神戸市に入る時、明石市から離れるとお金が発生すると。神戸市の場合は明石市に入ってきて無料だとお聞きしているんですけど、明石市の方も

出来たら神戸市に行っても明石市に入っても無料というような考えにしないでいただけたら有難いと思っております。

**発言者（明石地区タクシー協会）**

今の意見に対してですけれど、今のコミュニティバスなどでいろいろやられることは、交通不便地域とかですけど、対象者は健常者を対象にしていることが多いんですね。政策的に見て、障がい者も同じ市民、国民として同じような恩恵を受けるものが必要です。

今、バリアフリー、私たちもUDタクシーを導入という形をとっています。UDとはオールマイティー、全ての人が使いやすい設計という意味で、障がい者も車いすも乗せられる車も開発されているので、そういう施策のもとでやっていかなければならないと考えています。だから、コミュニティバスとかタクシーに関しても、そうゆう垣根をなしにできるような形をとらなければならない、それが公共交通であると認識しています。

それともう一つ、何でも地域から希望が上がってきたら出来るでは困ります。よく市と打合せして、失礼ですけど議員さんが自分の地元が言うことをしてくれでは困るので、採算性などを良く考える必要があります。

**発言者（梅田委員）**

高丘や山手台は神姫バスさんが路線バスを走らせています。新しく土地区画整理が進んで茜にも入っているんですが、そこに隣接した緑が丘という急斜面のところを開かれて600世帯の戸建ての住宅があり、高齢化が進んでいます。たこバスを走らせてくれないかとの声があるのですが、袋小路になっていて神姫バス路線の奥にあるので、公共交通がある中にたこバスの路線を二重に走らすことはできない。ところが神姫バスは大きいので車底を擦って入れない、ということで困っている。

必要なところに必要な形態で交通弱者を救済するのがいいとの声がありますが、なかなか具体的になっていない。神姫バスさんでバスの路線から中に入ったところに、中型なり小型なりのバスを走らせるような事例があるのかどうか、教えていただきたい。

**発言者（神姫バス株式会社）**

神姫バスでは主に大きなバスを使って運行しています。明石地区の事例では、大きなバスというのは全長が11メートル、あるいは9メートルの車両を使っています。ただ、兵庫県下ではなかなか大きい車は入れない狭隘道路だとか、あるいは人口が少なくて大きな車ではもったいないなとい

うところがあります。そういったところでは、我々が地域の自治会長など地域の代表が集まった会議に出席させていただいて、実験運行などを行った事例があります。

神戸市北区の方で行った事例におきましては、小型のバスしか入れないようなコミュニティセンターがあり、なんとか小さな車で実験できないかということで、我々の方で余剰の車がたまたま出てきたので、実験してみましようかということで、取り組んだ事例があります。

ただ、我々につきましては、独自の財源の中ではなかなか難しいので、地域の方の補助をいただきながら実験させていただいた事例があります。もし、緑が丘地域で動きがあるようでしたら、まず勉強会から参加させていただいて、もしかしてですが、地域の中で、まちづくりの一環として、例えば空き家を方向転換する場所に改修していただけたらとか、そういったご協力がいただけるのであれば、いろいろ可能性をさぐることもできるのかなと思っております。またお声掛けいただきましたら、出来る範囲ではありますが、検討させていただきたいと思えます。

#### **発言者（地域公共交通会議会長）**

交通ネットワークを新たに設けるにあたって、社会実験・実証実験等をするというルールはございません。実際やっていく中で、まずは、地域のニーズ、それと行政の交通政策に関わる担当部署の考え方、それと県・国とあと警察も含めて、関係機関と協議をして、その実験が可能かどうかも含めて、しっかりと議論をした上で、実施するという形になりますので、ニーズがあつたら全て社会実験するというものではありません。そこは地域の事情も様々でございますので、そこはしっかりと調査、議論、検討しながら進めていくようにしております。

#### **発言者（明石地区タクシー協会）**

梅田議員のお話なんですけれど、それは地域の合意でいかなければなりません。狭隘な道路の中でバスだけを中をくるくと回すのか、買い物にいくところを回すとか、よく吟味いただきたいと思います。バスだけの問題というより、バスができない部分にコミュニティタクシーを入れるとか、道路状況も考えて地域の中でいろいろと折衝していただきたい。

#### **発言（梅田委員）**

実は、山手台地域は開発から50年くらいたっていて、高齢化率が非常に高い。地域の中のショッピングセンターがなくなって、その横に

緑が丘がある。両方ともに高齢化が進んでいまして、買い物難民のような形になっております。市場の品物を持ってきて移動販売の形をとっておりますが、地域のニーズとしては、そのような課題がありますので、皆様のご協力をいただいて、市民の交通対策を進めていきたいところです。

**発言者（神姫バス株式会社）**

先ほどちょっと田舎の方の事例を申し上げてしまいましたが、実はその地域にはタクシー業者さんがいないエリアでございまして、明石市とはちょっと事情が違いますので、あまり適切ではなかったかもしれません。補足としてお伝えします。

**発言者（永井副委員長）**

今の事例、タクシー協会の協力をいただくなど、先ほどの山口市のグループタクシーのような制度を考えていかなければいかんのではないかと思います。明舞団地でも、路線バスが走っていますけれど、一步入ったところにはバスは入っていけない。ですから、神姫バスさん、山陽バスさんも共存をしながら、タクシー会社がその辺をどうフォローしていくか。国とか県が、そういったグループタクシーなどに対する助成なり、補助なりをどう考えられるのかお聞かせいただきたい。

**発言者（国土交通省神戸運輸監理部兵庫陸運部）**

国では特にありません。

**発言者（兵庫県県土整備部県土企画局交通政策課）**

県も国と同じく、まず路線バス、コミュニティバスという乗り合いのものを優先させていただいて、その上で必要があった際に、各市町さんのご意見を聞いて検討させていただきたいと思います。

**発言者（明石市連合自治協議会）**

私は二見の方なんですけど、たこバスは浜の方を回っていたんですけど、乗車率が少ないということで、今、廃止している。浜手は坂がありまして、坂を上がって行くのや、病院に行くのに、なんで止めたのだと怒られている。山口市のコミュニティタクシー、何かあったら坂の上に避難とか、病院に通う人など日頃いろんなことで困っていることがありますので、導入できるのだったら一辺導入して、どうゆう結果がでるか検証していただければありがたいと思います。

**発言者（久枝委員）**

コミュニティタクシーを止めたところは、グループタクシーに移行していくことを考えながらやっていくと聞いています。

明石市はコミュニティバスなので、どうしても駅を起点にしていますが、コミュニティタクシーというのは、バス停を起点ということも考えているんです。緑が丘についても、神姫バスが近くの山手台を走っているのであれば、そのバス停までをコミュニティタクシー・バスでやるということも考えられると思っています。

もう一つ、皆さんにご意見を聞けたら嬉しいんですけど、私も以前あるところで、たこバスを走らせて欲しいとお聞きしました。最終的には自治会として、乗車率等が厳しいのではないかなりましたが。その時にお話が出たのが、自家用車に乗れる方はどうしてもそれで移動してしまう。たこバスが走った時に、本当に乗るのかと。昔は女性があまり免許を持っていなかったが今は大体の方が免許を取っている。そうになると、自家用車を使う方が増えて、バス、タクシーに乗る方が減っていくのではないかなという意見も聞いたことがあるんです。

**発言者（国出委員長）**

非常に難しい問題であろうかと思いますので、今後の課題として、それぞれがそういうことも含めながらの交通政策ということになろうかと思えます。

**発言者（明石市高年クラブ連合会）**

高齢者の立場からですけど、バスにしても、タクシーにしても絶対に必要な交通機関です。ずっと家に閉じこもってはいけないので、そういう乗り物に乗って明石駅前に行くと、買い物を楽しむということで、是非これからも高齢者を対象に、そういった面で利便性の良くなるような計画を皆さんと一緒に考えていただきたいと思えます。

明石市議会議長 深山 昌明 様

平成29年1月31日

上記のとおり報告します。

建設企業常任委員長 国出 拓志